

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11007	1	後期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	生活健康科学 (Life Health Science)				
担当教員名	河辺 俊雄				
授業の概要及び到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 概要～フィールドで得られた経験とデータを基礎にして、講義では生態学の基礎概念をしっかりとおさえながら、必要な生物学や人口学の知識を説明する。 生態学の大きな特徴の一つは、総合の科学として全体性を見失わないことであり、人間と環境との相互関係（人類生態学）を総合的に説明する。人類進化の視点から、地球環境と人類の関係を変化してゆく時間軸の中でとらえ、人類の将来について考える。生態系の中の人間、人間の生存と健康、人口からみた人間、環境問題と人間というテーマに従って、人類生態学の主要な問題を検討し、映像資料を活用して人類の様々な姿を紹介する。 到達目標～人間と環境との関係というテーマについて、人類の特徴を明らかにすることで、多様性の高い人類の生態を理解する。総合性の視点を重視して、現代の環境問題の根本原因を考察し、自分で問題を考え行動するような能力を得るのが本講の到達目標の一つである。 					
準備学習等					
<p>次回の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書・参考書をよく読み、予習しておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着をはかり授業内テストに備えること。</p>					
成績評価の方法	<p>授業内テスト(60%)および受講状況(40%)に基づいて総合的に判断する。 ※授業内テストは30分で3回行う。テキスト・配付資料・自筆ノートを参照して、300字程度のプレゼンテーション用スピーチ原稿作成のスキル向上も目的の一つ。なお、定期試験やレポートは実施しない。</p>				
テキスト	大塚柳太郎・河辺俊雄ほか『人類生態学 [第2版]』東京大学出版会 2012年				
参考図書	授業中に指示する。				

備 考	<p>講義の時には上記のテキストを持参すること。 具体的な事実に基づく知識が重要なので、映像資料（ブルーレイ・DVD）を随所に使って講義を行う。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 オフィスアワー：授業終了後、教室等で質問を受け付けます。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回：イントロダクション 講義概要、スケジュール、評価方法等</p> <p>第2回：人間と環境 環境認識、環境の多層構造、環境の構成要素、生物学的環境要因</p> <p>第3回：生態学と人類 生態系の構造と機能、人間個体群、人類進化と環境要因</p> <p>第4回：農耕起源 食物生産の開始、農耕起源地、農耕文化、古代文明</p> <p>第5回：人間の生活 居住場所、社会集団、婚姻システム、生業</p> <p>第6回：身体適応 日照、有害紫外線、ビタミンD、気温・湿度、成長パターン</p> <p>第7回：行動の生態学 生業活動、労働時間、エネルギー効率</p> <p>第8回：食と栄養 世界の主食、食文化、栄養素、栄養欠乏、栄養生態学</p> <p>第9回：病気の生態学 環境と病気、伝染病、パンデミック、エマージングウイルス</p> <p>第10回：人口変動と人口問題 人口変化・急増、人口支持力、人口転換、出生率、死亡率、人口減少、少子高齢化</p> <p>第11回：エネルギーと資源 資源枯渇と環境破壊、エネルギー利用、成長の限界、自然エネルギー</p> <p>第12回：ライフスタイルと環境 大量生産、大量消費、大量廃棄、先進国と途上国</p> <p>第13回：地球環境問題 酸性雨、オゾン層破壊、生態系の破壊、生物多様性、異常気象</p> <p>第14回：地球温暖化 地球サミット、IPCC、京都議定書、温室効果ガス、排出削減</p> <p>第15回：まとめ</p>	